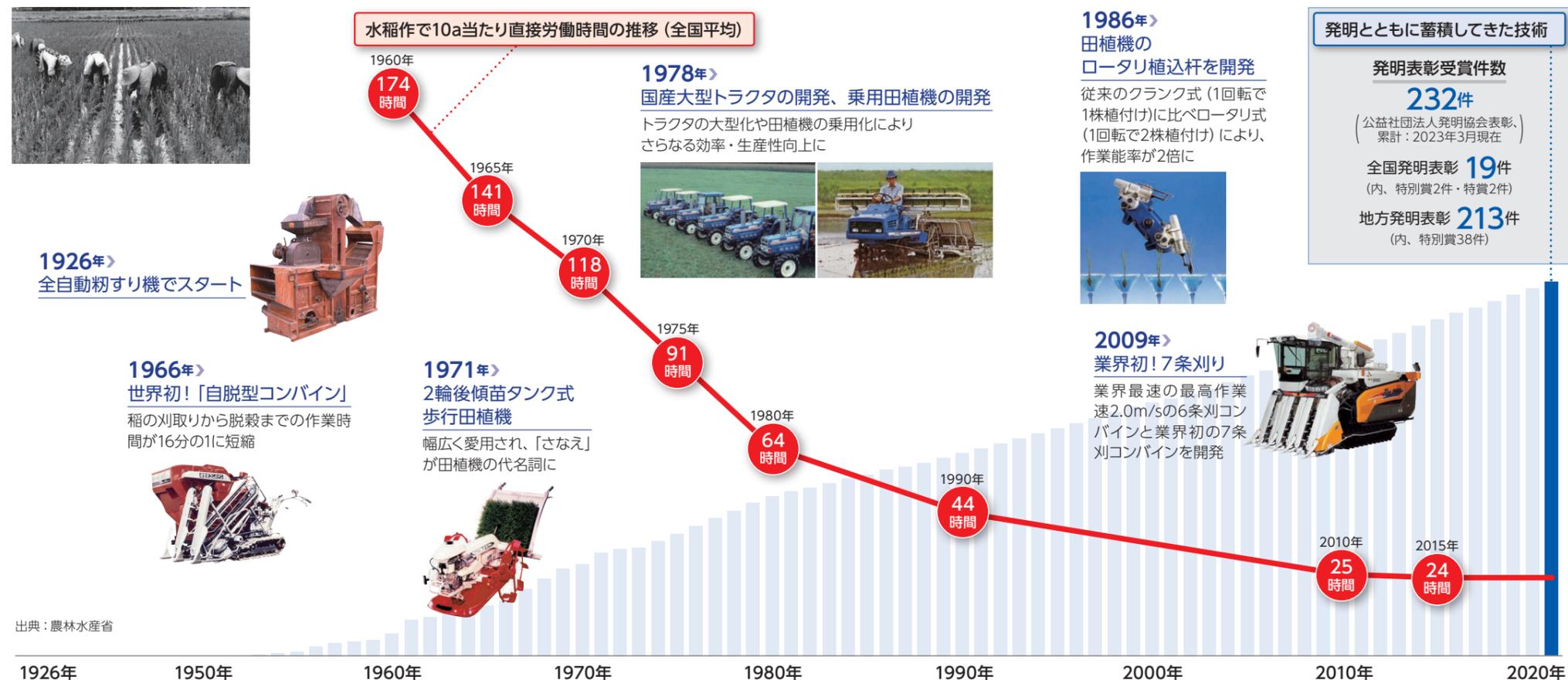


# 社会課題を解決してきた歴史

創業者の想い「農家を過酷な労働から解放したい」から始まり、「お客さまに喜ばれる製品・サービスの提供」を通じ、社会的価値と経済的価値を創出してきました。

## 日本農機のスタンダードを創りあげ、機械化の進展に貢献



**発明とともに蓄積してきた技術**

発明表彰受賞件数

**232件**  
(公益社団法人発明協会表彰)  
累計：2023年3月現在

全国発明表彰 **19件**  
(内、特別賞2件・特賞2件)

地方発明表彰 **213件**  
(内、特別賞38件)

**現在・未来へ**

**スマート農業**  
ロボット技術やICTなど先端技術を活用したスマート農業を推進しています。効率的で生産性の高い農業経営を目指します。

**世界の農業に貢献**  
アセアンなど農業の機械化により、効率的な食料生産、農業の生産性向上に貢献します。

**生活の質の充実へ**  
欧州の街づくりや北米等でのプライベート充実にも貢献します。

**環境保全へ**  
脱炭素・循環型社会の実現へ貢献します。

**SDGs達成への貢献**

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

**「食と農と大地」のソリューション**

夢ある農業と美しい景観を支え、持続可能な「食と農と大地」の未来を創造する

1926年	1945 — 1950年代	1960 — 1970年代	1980 — 1990年代	2000年代	2010 — 2020年代	2030年
<b>主な社会課題・ニーズ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦後の食料増産</li> <li>高度経済成長期のはじまり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度経済成長期、都市部への人口集中による農業労働人口の減少</li> <li>農業の近代化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化の進展</li> <li>農業従事者の減少、高齢化の進展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食の安心・安全への関心の高まり</li> <li>食料自給率向上</li> <li>農業の持続的発展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業経営の大規模化</li> <li>農業従事者の減少、高齢化の進展</li> <li>農作物の高付加価値化</li> <li>環境負荷低減</li> <li>食料安全保障</li> </ul>	<b>SDGs達成への貢献</b>
<b>井関グループのソリューション</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食料増産を支える農業機械の開発と普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業機械の大型化と多様化</li> <li>稲作の機械化一貫体系の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>省力、低コスト農業に貢献する機械の開発</li> <li>野菜作における機械化</li> <li>欧州向け乗用芝刈機開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産性向上に貢献する大型機械の開発</li> <li>営農提案・サポートなどソフト面の強化</li> <li>アジアへの農業機械の展開本格化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先端技術やデータを活用したスマート農業の実現</li> <li>環境保全型農業の推進</li> </ul>	
<b>社会的価値を創出</b> ～持続可能な農業に貢献～	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業の機械化による労力軽減・生産性向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の工業化・経済発展に寄与</li> <li>自脱型コンバインと田植機は戦後日本のイノベーション100選に選定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>省力・低コスト化による収益性向上</li> <li>野菜作など多様化・高収益化</li> <li>海外景観整備の作業能率向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大型化・スマート化などさらなる効率化・生産性向上</li> <li>環境負荷低減</li> <li>アジア農業の生産性向上</li> </ul>		

**1926年** 「井関農具商会」を創立

**1936年** 「井関農機株式会社」を設立

**1946年** 松山工場を設立

**1949年** 熊本工場を設立

**1958年** 系列販売会社の設立を開始以降、販売会社を日本全国に展開

**1961年** 新潟工場を設立

**1969年** 東京証券取引所に株式を上場

**1971年** 東京支社を本社事務所と改称

**1971年** ブラッセルにN.V. ISEKI Europe S.A.を設立

**1972年** 松山工場を増設、本社を同所に移転

**1977年** 茨城県に中央研修所を設立

北米にトラクタを輸出開始 (OEM)

**2001年** 製造部門の分社により、株式会社井関松山製造所、株式会社井関熊本製造所を設立

**2003年** 中国江蘇省に井関農機(常州)有限公司を設立

**2011年** 中国湖北省に東風井関農業機械(湖北)有限公司を設立

**2012年** PT.ISEKI INDONESIAを設立

**2013年** ISEKIテクニカルトレーニングセンター (ITTC) を設立

ISEKI SALES (THAILAND) CO.,Ltd. (現IST Farm Machinery CO.,Ltd.) を設立

**2014年** 井関常州と東風井関を事業統合し、東風井関農業機械有限公司を設立

フランス代理店Yvan Beal S.A.S、YB Holding S.A.S (現：ISEKI France S.A.S) を子会社化

**2015年** 夢ある農業総合研究所を設立

**2016年** 設計基本技術トレーニングセンター (IETC) を設立

**2017年** ISEKIグローバルトレーニングセンター (IGTC) を設立

**2020年** タイ販売会社 IST Farm machinery CO.,Ltd.を子会社化

**2022年** ドイツ販売代理店Iseki-Maschinen GmbHを子会社化